

精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導

[講義・演習] 第3学年 後期 選択 1単位

《履修上の留意事項》この科目を履修するものは、合わせて精神保健福祉ソーシャルワーク実習も必ず履修すること。

《担当者名》 橋本 菊次郎 hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp 奥田かおり 鈴木 和 向谷地 生良

【概要】

精神障害者やその生活のしづらさ、精神保健福祉援助の知識と技術について個別指導及び集団指導を通して実践的に学ぶ。

【学修目標】

1. 実習の意義と概要を説明できる
2. 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解できる
3. 精神保健福祉援助に係る知識と技術を理解し、実践できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	科目の概要、実習に関するスケジュールの確認をする。 実習、実習指導における個別指導と集団指導の意義について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
2	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神保健福祉、精神医療の現状と精神保健福祉士の役割について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
3	精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術の理解	自治体など公的な機関で働く精神保健福祉士の実践について理解する。	武市浩之（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
4	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神科病院の仕組みと求められる精神保健福祉士の役割について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
5	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	依存症を抱えた当事者の体験談を聞き、精神保健福祉士としての支援の在り方について理解する。	高橋哲也（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
6	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解	精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
7	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	統合失調症などを持つ当事者の体験を聴き、精神保健福祉士の実践について理解する。	池松麻穂（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
8	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解	倫理綱領を基に守秘義務についてについて理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解	実習日誌およびプロセスレコードの書き方について理解し、作成することができる。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
10	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する理解	事前学習 実習施設の理解（根拠法、施設の役割等）を深め、示すことができる。 実習施設がある地域に関する情報を収集し、地域について理解を深め、示すことができる（地域アセスメント）。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
11	現場体験学習及び見学実習（地域事業所）	1日体験学習 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等を理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
12	現場体験学習及び見学実習（地域事業所）	1日体験学習 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等を理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
13	現場体験学習及び見学実習（医療機関）	1日体験学習 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社	向谷地、橋本、奥田、鈴木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		会等を理解する。	
14	現場体験学習及び見学実習（医療機関）	1日体験学習 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等を理解する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
15	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解	精神障害者の家族の方の体験談を聴き、当事者の背景を理解する。	菅原悦子（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
16	実習計画書の作成	体験学習を踏まえ、実習計画書の作成をする。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
17	精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術の理解	司法分野でのソーシャルワーカー（社会復帰調整官）の実践について理解する。	社会復帰調整官（特別講師） 向谷地、橋本、奥田、鈴木
18	実習計画書の作成	体験学習を踏まえ、実習計画書の作成をする。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
19	実習計画書の作成	体験学習を踏まえ、実習計画書の作成をする。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
20	実習前オリエンテーション	実習に向けた全体オリエンテーションから実習中に関する注意事項について知る。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
21	実習打ち合わせ	実習生、実習担当教員、実習指導担当者との三者で実習課題について検討する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
22	実習打ち合わせ	実習生、実習担当教員、実習指導担当者との三者で実習課題について検討する。	向谷地、橋本、奥田、鈴木
23	実習（12日間） （学生の帰校日）	実習生との面接、グループでの実習を振り返り、実習の進捗状況等の確認を行う。 ジレンマ体験について理解を深め、自分の考えを述べるができる。	向谷地、橋本、奥田、鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

特別講師、体験実習等各種レポート（100%）

【教科書】

使用しない。必要に応じて講義資料を配布する。

【参考書】

その都度紹介する。

【備考】

本科目及び「精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導」（4年次前期）を履修することにより、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「精神保健福祉援助実習指導」を履修したことになる。

【学修の準備】

特別講師等、毎回の授業内容を確認し、内容にそって事前学習、レポート作成等を課す。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,3,4,5

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士）、橋本菊次郎（精神保健福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、鈴木和（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。